

## カトリック仙台司教区

## 東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗  
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12  
カトリック仙台司教区事務局  
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378  
1) 義援金振替口座：02260-9-2305  
名義：カトリック仙台司教区本部事務局  
2) 支援金振替口座：00170-5-95979  
名義：カリタスジャパン

仙台教区サポートセンターは大きく分けて二つの活動を行っています。一つは各ベース(石巻、米川、釜石)を拠点とした、ボランティアとベース・スタッフによる被災地復興支援の活動です。そしてもう一つはカリタスジャパンが中心の、公益性の高い団体に対しての経済支援と、震災により仕事を失った、農漁業(沿岸部の基幹産業)に対しての産業復興支援です。今回のニュースレターでは、農漁業に対しての支援の一側面をご紹介します。

つ再開されている。仮設住宅に引きこもりがちだった集落のお年寄りたちも、外へ出て畑仕事をすることに喜びを感じているという。畑を耕すトラクターは住民の心も耕している！



トラクターと生産者！

## 復活させよう！南町商店街！

カリタスジャパン・SDSCは気仙沼南町商店街の復興を仮設商店街プロジェクトを通して支援しています。南町は100店以上の飲食店が立ち並ぶ市内随一の繁華街でしたが、津波で水没。地元の自治会館で避難生活を始める中、県や市主導の復興計画を待つのではなく、自分たちの手で南町を復興させようと、若手店主が中心になって仮設商店街計画を立案しました。気仙沼カトリック幼稚園に通う園児の父兄である小野寺一雄さんが若手リーダーの一人で、会津神父様を介してつながりができました。仮設商店街を津波以前の状態に戻すだけでなく、より活気あるものにしようと、もともと南町に住んでいた店舗以外にも出店を呼びかけることで業種を広げたり、地域の子供たちの文化活動を支援するためのミニコンサートホールや自習スペースを設け、親子の集客を目指します。2階建てから成る7棟に52店舗が出店12月24日のオープンを予定しています。土地は自分たちで確保し、建物は中小企業基盤整備機構(国からの支援)が貸与し、内装費をカリタスが支援しています。



完成間近！南町仮設商店街！

## トラクターで心を耕せ！

南三陸町歌津にある馬場中山集落は、東日本大震災により大きな被害を受けた。およそ90世帯あった家屋のうち95%が津波により全壊。ワカメ漁を主とする養殖と自給自足の農業で生活をしていましたが、津波により養殖、加工施設は全壊、農機具もほぼ全てが流された。現在、29世帯が馬場中山集落にある仮設住宅で暮らしている。

住民は、漁業、農業の復興に向けて、動き出しているが、漁業は、集落の住民が一つになり復旧作業に追われているが、復興にはまだまだ時間がかかる。

一方、農業は、震災後、田畑が荒地になっていたが、トラクターで耕せば、生産を再開できる。一台のトラクターを支援することで、住民が共同で使用することができ、農業の復興につながる。

カリタスが支援したトラクターが入った今、農業は少しずつ

## 電照菊で畑にひかりを！

南三陸町田尻畑地区では、ビニールハウスの菊栽培が盛んです。宮城県内1位、2位を競う販売高を誇り、3.3haの畑で一年中菊を出荷してきました。所謂電照菊栽培です。しかし、今回の震災で畑は隅から隅まで津波をかぶり、塩害でやられ、ビニールハウス、農機具、機械類はすべて流されてしまいました。復旧のために、行政側から出された通達は、「まず自助努力で土壌改良をすべし！それができたら、そこに建てるビニールハウスのための費用を出しましょう」という厳しいものでした。表土10センチを削り、その後30センチの新たな土を入れるという土壌改良のための費用は数千万円規模で、とてもできるものではありません。そこで、菊



電照菊畑、本来ならばこのように！

栽培農家は組合を作り、協力して復興していく枠組みをまず作ります。カリタスジャパンはこの組合に対してトラクター、ユンボ、ダンプを中古で提供し、なるべく業者に頼らずに土壌改良を実施し、年度内の栽培再開を目指す生産者を支援します。

## ほたての貝殻は韓国から

浦戸諸島の桂島では、かきの養殖が主産業の一つです。養殖方法は、ほたての貝の殻を連ねて海に沈め、幼生を付着させて成長させるというもの。被災前はほたて貝を県内他地域のほたて養殖業者から仕入れていましたが、彼らも被災して貝の調達が可能に。さらに、被災した大手かき業者が国内の他の地域のほたて貝を買い占めたため、零細養殖業者達が貝を調達できる見通しがほぼ立たなくなりました。カリタスジャパンはカリタス韓国経由で韓国から人口ほたて貝のサンプルを1万個調達して養殖業者に配布し、幼生の付着状況や生育状態を調べてもらっている最中です。必要であればサンプルを改良し、量産してかき養殖復興に寄与したいと考えています。桂島のかき作業場は浦戸諸島の4島で唯一、津波によって流されなかった施設です。他の3島の養殖業者も桂島の共同作業に加わっていますので、桂島のかき養殖復興は他の3島の復興につながっていきます。



韓国からのホタテの代用品！